

日本におけるアウグステイヌス文献

——松村克己博士への感謝として——

宮 谷 宣 史

わが国には、いつごろ、誰によって、アウグステイヌスの名がもたらされたのであろうか。これについては今までのところ確証をもって言えないし、また、文献上における彼の名の初出もわかっていないようである。けれども、アウグステイヌスがすでにキリシタンの時代に知られていたことは間違いない。⁽¹⁾

一五九一年(天正十九年)、加津佐で出版された『丸血留の道』⁽²⁾においては、数回におよぶアウグステイヌスへの言及がある。⁽³⁾そしてたとえば「……アグスチノ(キリシタン)ニ成リ玉ハザル以前ヨリ大学匠ニテ、此御法ヲ云い崩サントシ玉ト雖、御主御堪忍深く在マスガ故ニ、命ノ隙ヲ延べ玉也。基レニ依、(キリシタン)ニ成リ、ビスポノ位ニ任ゼラレ、ド当留トテ恵化(エケレジャ)——ヲカカヘ玉ヲ強キ柱ト成玉也。」⁽⁴⁾と、彼の人物について簡単ではあるが、適

切な説明が見うけられる。また本書にはアウグスティヌスの著作からの引用文もある⁽⁵⁾。当時、キリシタンによく読まれた、駐日スペイン人、グラナダ (Luis de Granada 1505~1588) の訳書『信心録』⁽⁶⁾ (一五九二年〈文禄二年〉天草) と『ぎや・ど・ぺかどる』⁽⁷⁾ (一五九九年〈慶長四年〉長崎) にも「サントアウグスチノ」、「さんとあぐすちの」という名がしばしば出てくる⁽⁸⁾。更に、一六〇二年 (慶長七年) にはアウグスティノ会士が日本に渡来し、それからわずかの期間ではあるが布教活動に従事している事実⁽⁹⁾、幾度か版を重ねたキリシタンの貴重な教義書『どちりなきりしたん』⁽¹⁰⁾ には部分的ではあるがアウグスティヌスの思想の影響が認められることなどから、すでにこの時代においてアウグスティヌスが、少なくとも一部のキリシタンの間では知られていたといえよう。

日本におけるアウグスティヌスの著作の初訳は一九〇七年 (明治四十年) である。訳者宮崎八百吉 (一八六四~一九二二) は『湖処子詩集』を出しているキリスト教詩人で、『懺悔録』は英訳からの重訳であるが、一月を経ずして再版を要し、一般から歓迎された。明治期においては、諸外国の思想、文学関係の書物の邦訳がかなり早くから盛んであった事態を思うと、この初訳は遅いと言わざるをえない。もっとも、アウグスティヌスについては少し以前に紹介されていた。たとえば、波多野精一著『西洋哲学史要』 (一九〇一年〈明治三十四年〉) や大西祝著『西洋哲学史』上巻 (一九〇三年〈明治三十六年〉) などのなかに、アウグスティヌスの思想の特色に関する短い叙述を見出すことができる。しかし、彼をわが国に普及させるのに大きな役割を果たしたのは、明治末年に出たルドルフ・オイケン著安倍能成訳『大思想家之人生観』 (一九一二年〈明治四十五年—大正元年〉) であった。本書における五〇頁に近い⁽¹³⁾、アウグスティヌスの生涯と思想に関する記述は、日本では初めてあらわれた詳細なもので、しかも文体、内容ともに優れており、当時多くの読者を魅了したことは容易に想像できる。

大正から昭和初期にかけては、文献表で明らかなごとく、征矢野晃雄などによって、アウグスティヌスへの関心が高まり、研究論文が現われてくる。今ここでは、表に挙げてなくて重要なものを二三指摘しておきたい。まず一九二一年（大正十年）に柏井園が『基督教史』を著わし、アウグスティヌスをペラギウスやドナトゥス派との論戦にふれつつ、取り上げている。次に、西谷啓治が岩波講座『哲学』の中の一冊『神秘思想史』（一九三二年〈昭和七年〉）において「解釈学的神秘主義」と題する章の下で「アウグスチン」について特に哲学的側面を詳しく論じている。同じ講座中の一冊『神学史』上下（一九三三年〈昭和八年〉）の執筆者石原謙も、アウグスティヌスに多くの頁をさき、彼の主要著作について解説し、かつ、その思想の歴史的意義を明確に描き出している。これらの著作によって、ヨーロッパの思想史におけるアウグスティヌスの重要性が昭和の初期頃から一般に認識されるようになったといえよう。

文献表に載っている個々の業績については今は論じない。ここではただ、日本におけるアウグスティヌス研究史において大切な位置を占める二つの単行本について言及するにとどめる。その一つは岩下壮一著『アウグスチヌス 神の国』⁽¹⁴⁾（一九三五年〈昭和十年〉）であり、他は松村克己著『アウグスティヌス』（一九三七年〈昭和十二年〉）である。前者は日本人の手による最初の学問的研究であり、後者はわが国において初めてなされたアウグスティヌスの全体的把握の試みである。この意味で両書は今後とも参照さるべきであるし、内容的にみて両者はその価値を有している。

さて、次にかかげる文献表は二つの意図のもとに作られた。まず、わが国のアウグスティヌス研究に大きな貢献をされた松村克己博士の業績に感謝するためである。次に、今後の研究発展のために、この分野における既存の諸業績を参照することが大切であるにもかかわらず、まだ文献表が存在していないからである。

一見すればわかるごとく、文献の並べ方は主題別やアルファベット順ではなく、編年体である。各年代を翻訳、単行本、論文の三項に分けた。翻訳にはアウグスティヌス自身の著作以外のものも含めた。論文は（今回は意識的に）学術的なものに限定せず、一般的なもののまですべてを列挙した。とにかく、一度はあらゆる文献を可能な限り網羅することも大切であると思ったからである。⁽¹⁵⁾ただ、便宜上、タイトルに「アウグスティヌス」と記されている場合に限定したので、例えば、ドナトゥス派に関する文献類は入っていない。雑誌で巻数や号名が明記されていないのは、まだ確かめていないからである。全体の三分の一ほどが未見のため、今回は頁数を一切記入しなかった。このような不完全なままで公にすることを許していただきたい。また、不正確な記述や記載もれの分については御指摘いただければ幸いである。⁽¹⁶⁾私としてはこれに基づき、次は個々の論文の内容を検討し、取捨選択し、「日本におけるアウグスティヌス研究文献目録」を作成したいと思っている。

註

- 1 この点に関しては蔵内数太氏の御教示に負っている。記して感謝したい。
- 2 本書については海老沢有道他編『キリシタン書・排耶書』（日本思想大系25）岩波書店一九七〇年、六二三～六二六頁にあるH・チースリクの解説、姉崎正治編著『切支丹宗教文学』同文館一九三二年、二七頁以下を参照。
- 3 計六回見い出せる。
- 4 前掲『キリシタン書・排耶書』三三二頁。なお、（）を附しているところはテキストにおいて合成字が用いられている
- 5 箇所であり、その意味を（）内に記した。合成字については同書六五二頁を参照せよ。
- 6 Enarr. in Ps. 54 から引用されている。前掲『キリシタン書・排耶書』三三二頁。
- 7 姉崎正治編著『切支丹宗教文学』二六三～五八二頁に本文がある。
- 8 村岡典嗣校訂・解説『ぎや・ど・ぺかどる』が興謝野寛他編『日本古典全集』一九二七年の中に上、下二巻で出版されている。
- 9 『信心録』に八回、『ぎや・ど・ぺかどる』に三七回。

『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）

- 9 海老沢有道・大内三郎共著『日本キリスト教史』日本基督教出版局、一九七一年、八七頁以下、九九頁以下を参照。
- 10 前掲『キリシタン書・排耶書』六〇七～六一〇頁、新村出他編『吉利丹文学集』上、朝日新聞社刊日本古典全書、一九五七年、九二頁以下を参照。
- 11 前掲『キリシタン書・排耶書』五六四頁以下を参照。
- 12 宮崎湖処子については米倉充氏に御教示を受けた。なお亀井勝一郎、久山康他編『近代日本とキリスト教——明治篇——』創文社、一九五六年、一五四頁以下を参照。
- 13 第二篇キリスト教、第二章古きキリスト教、第一節アウグスチン以前の時代、第二節アウグスチン（一八八～三三五頁）となっている。
- 14 本書は明治四五年、東京帝大に仏文で提出された論文に基づいている。
- 15 文献表作成にさいして特に参考になったのは、稲垣良典「日本における中世哲学関係文献目録Ⅱ アウグスチヌス」『アカデミア』十八（文学篇）、南山学会、一九五七年、七～十二頁（201）と日本学術会議第一部編『文学・哲学・史学文献目録』九（西洋古典学篇）一九六〇年、六一～六四頁、一二二頁である。前者には一一二の、後者には七五の文献が挙げられている。なお、研究史を簡単に記したものとしては、具印徹（232）と小野忠信（303）の報告がある。
- 16 ここには現在まで日本で公開されたアウグスティヌス文献の、おそらく七～八割程度しか網羅できなかったと思う。したがって今後より完全なリスト作成のために、紙面をかりて、大方の御協力をお願いしたい。

一九〇七（明治四〇）年

翻訳

- 1 アウガスチン著、宮崎八百吉訳『懺悔録』警醒社書店
論文

- 2 宮崎八百吉「聖アウガスチン小伝」アウガスチン著、宮崎八百吉訳『懺悔録』警醒社書店

一九〇八（明治四一）年

翻訳

- 3 アウガスチン著、宮崎八百吉訳『懺悔録』警醒社書店（1の再版）

一九一一（明治四四）年

論文

- 4 高木壬太郎「アウガスチン」高木壬太郎編『基督教大辞典』警醒社書店

一九一四（大正三）年

論文

- 5 釘宮辰生「ペラギヤス乎オガスチン乎」『神学評論』第一卷

一九一七（大正六）年

『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）

論文

- 6 征矢野晃雄「聖アウグスチヌスに就て」『福音新報』（同著「聖アウグスチヌスの研究」長崎書店、一九二九、三九一〜三〇九頁）

一九一八（大正七）年

論文

- 7 征矢野晃雄「回心後の聖アウグスチヌス」『福音新報』（同著「聖アウグスチヌスの研究」、三〇九〜三一四頁）

一九一九（大正八）年

翻訳

- 8 アウグスチヌス著、中山昌樹訳『懺悔録』洛陽堂

一九二〇（大正九）年

論文

- 9 川又吉五郎「アウグスチンの罪惡観」『神学評論』第七卷
- 10 比屋根安定「アウグスティヌスと彼の神学」『神学評論』第七卷

一九二二（大正十一）年

論文

- 11 征矢野晃雄「AugustinismusとPelagianismus」『哲学雑誌』第三七卷第四三三号、四二四号、四二六号、四二七号

一九二三（大正十二）年

翻訳

- 12 A・v・ハルナック著、佐藤繁彦訳『省察と箴言』叢文閣

一九二五（大正十四）年

論文

- 13 佐野勝也「孤独のアウグスチヌス」『講座』
14 征矢野晃雄「聖アウグスチヌスの恩寵論」『聖書之研鑽』一九二七（昭和二）年まで十六回にわたり連載（同著『聖アウグスチヌスの研究』長崎書店、九・一・二六二頁）

一九二六（昭和一）年

論文

- 15 大庭征露「アウグスチヌスの照明説」『哲学雑誌』第四三卷第四七七号、第四七八号

一九二八（昭和三）年

翻訳

- 16 オウガスチン著、宮原晃一郎訳『懺悔録』（世界大思想全集 四）春秋社

論文

- 17 西田幾多郎「アウグスチヌスの自覚」岩波講座『世界思潮』七（同著『西田幾多郎全集』第十二卷、岩波書店、一九五〇、一一二～一一八頁）

- 18 斯波義慧「アウグスチヌス著『デ・ベアタ・ヴィタ』について」『哲学雑誌』第四四卷

- 19 斯波義慧「トレルチ『アウグスチヌス・キリスト教的古代と中世』『カトリック』第八卷

一九二九（昭和四）年

翻訳

- 20 アウグスチヌス著中山昌樹訳『懺悔録』（8の重版）
21 A・v・ハルナック編著、山谷省吾訳『アグスチンの懺悔録』岩波書店

単行本

- 22 征矢野晃雄『聖アウグスチヌスの研究』長崎書店

論文

- 23 征矢野晃雄「聖アウグスチヌスの宗教と哲学」（同著『聖アウグスチヌスの研究』長崎書店、一・九〇頁）

- 24 河野与一「アウグスチヌス」岩波講座『世界思潮』十二

- 25 三谷隆正「アウグスチヌスの肉体観」『聖書之研究』九月号、十月号（同著『三谷隆正全集』第四卷、岩波書店、一九六五、二四八～二六〇頁）
- 26 斯波義慧「アウグスチヌス著『コントラ・アカデミコス』について」『哲学雑誌』第四五巻

一九三〇（昭和五）年

翻訳

- 27 アウグスチヌス著、内村達三郎訳『懺悔録』岩波書店
- 28 G・パピニ著、寺尾純夫訳『聖オーガスチン』アルス社単行本
- 29 『カトリック』第十巻第六号「アウグスチヌス特輯号」

論文

- 30 H・ノル「聖アウグスチヌスと現代」『同右』
- 31 S・カンドウ「聖アウグスチヌスと哲学の諸問題」『同右』
- 32 戸塚文卿「聖アウグスチヌスに於ける理性と信仰」『同右』
- 33 A・アノージ「聖アウグスチヌスとカトリシズム」『同右』
- 34 H・ボイヴェルス「聖アウグスチヌスと教会主義」『同右』
- 35 小倉眞人「聖アウグスチヌス、山上の垂訓註解」『同右』
- 36 野田時助「聖アウグスチヌスと予定説」『同右』
- 37 J・クラウス「聖アウグスチヌスの国家観」『同右』
- 38 J・ラリュ「聖アウグスチヌスと信仰生活」『同右』

『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）

- 39 大庭征露「聖アウグスチヌスの回心」『同右』
- 40 三谷隆正「アウグスチヌス対ペラギウスの話」『日本聖書雑誌』十二月号（同著『三谷隆正全集』第四巻、岩波書店、二六一～二八三頁）
- 41 三谷隆正「聖アウグスチヌスとペラギウス」『地塩』十二月号（同著『三谷隆正全集』第四巻、岩波書店、二八四～二八八頁）
- 42 大底征露「聖アウグスチヌスにおける神秘的体験の問題——告白——七卷一〇章に関するハルナックおよびノエルガールドの解釈について——」『探求者 論文集』第二号
- 43 斯波義慧「アウグスチヌスの神の存在の証明」『宗教研究』七巻六号

一九三一（昭和六）年

翻訳

- 44 アウグスティヌス著、竹村清訳『恩寵・意志・予定』（ペラギウスの著作から三論文）新生堂

論文

- 45 長沢信寿「アウグスチヌスに於ける至福生活の概念とその認識論的基礎」『竜谷大学論集』二九八号、二九九号

一九三二（昭和七）年

翻訳

46 アウグスチヌス著、竹村清訳『基督教綱要』（エンキョリデオ
ン）新生堂

47 アウグステイヌス著、中山昌樹訳『神の都』（本文抄萃）（中
山昌樹『著聖アウグステイヌス伝及び『神の都』』新生堂、六、
一八六頁）

48 アウグスチヌス著、内村達三郎訳『懺悔録』春秋社（27の別
刊）

49 E・デルソン著、長沢信寿訳『アウグスチヌスの形而上学の将
来』『哲学研究』第十七巻、第三冊、第五冊
単行本

50 中山昌樹『聖アウグステイヌス伝及び『神の都』（基督教文
献叢書第二二巻）新生堂

51 山口等彦『アウグステイヌスの時間研究』『哲学雑誌』第四
八巻
論文

一九三三（昭和八）年

論文

52 松村克己『悪の問題とアウグスチヌスの思想一斑』『共助』
七月号

53 松村克己『アウグスチヌスに於ける悪の問題』『哲学研究』
第一八巻、第十一冊
論文

一九三四（昭和九）年

翻訳

54 アウグスチヌス著、中山昌樹訳『懺悔録』新生堂

論文

55 千代田謙『Augustinusの羅馬史論——『神国』遠望——』『西
洋史研究』第五輯

56 三谷隆正『征矢野見雄君著『聖アウグスチヌスの研究』を讀
む』『葡萄樹之枝』九月号（同著『三谷隆正全集』第四巻、岩波
書店、二九三～二九五頁）

57 森本芳雄『アウグステイヌスの『回心』に就いて』『基督
教研究』第十二巻第一号

一九三五（昭和十）年

単行本

58 岩下壮一『アウグスチヌス 神の国』岩波書店

論文

59 森本芳雄『アウグステイヌスの『回心』に就いて』(一)、(二)、
(四)、『基督教研究』第十二巻第二号、三号、四号

60 武田信一『聖アウグスチヌスの愛』『大正大学年報』

一九三六（昭和十一）年

論文

- 61 松村克己「アウグスティヌス『神の国』の歴史観」『哲学研究』第二一卷第九冊
- 62 三谷隆正「母モニカ」『東京女子大学同窓会月報』十月号（同著『三谷隆正全集』第四卷、岩波書店、二八九～二九二頁）
- 一九三七（昭和十二）年
- 翻訳
- 63 A・V・ハルナック編著、服部英次郎訳『アウグスチヌス 省察と箴言』岩波書店
単行本
- 64 松村克己『アウグステイヌス』（西哲叢書V）弘文堂書房
- 65 三谷隆正『アウグスチヌス』三省堂（同著『三谷隆正全集』第一卷、岩波書店、一九六五、二一三～三六〇頁）
論文
- 66 松村克己「アウグスチヌスの世界観」『信仰と生活』（臨時増刊号）
- 67 森本芳雄「創造に関するアウグステイヌスの思想」『基督教研究』第十四卷第四号
- 68 鈴木成高「アウグステイヌスとその時代」『史林』第二二卷第四号
- 69 三谷隆正「アウグスチヌスの神国観」『日本聖書雑誌』八月号（同著『三谷隆正全集』第四卷、岩波書店、二三九～二四七頁）
『日本におけるアウグステイヌス文献』（宮谷）
- 70 秀村欣二「松村克己・アウグステイヌス」（書評）『歴史学研究』第七卷第八号
- 一九三八（昭和十三）年
- 論文
- 71 岩下壮一「聖アウグスチヌスの真理探求論」『布教』第一卷第一号
- 72 松村克己「アウグスチヌスと修道院の生活」(一)、(二)、(三)、『共助』三月号、四月号
- 73 長江恵「アウグスチヌスの時間論」『インテル・ノス』第一号
- 一九三九（昭和十四）年
- 翻訳
- 74 アウグスチヌス著、高田武四郎訳「幸福なる生活について」『同志社哲学年報』
- 75 アウグステイヌス著、竹村清訳『恩寵と自由』（ペラギウス論争から四論文）新生堂
- 76 アウグステイヌス著、山本光雄訳「幸福なる生活について」『哲学雑誌』第五五卷
論文
- 77 大庭征露「アウグスチヌス雑考」『カトリック』第十九卷第三号

78 魚木忠一「ロマ書第七章に就いてルッテルに与えたアウグス
ティヌスの影響」『基督教研究』第十六卷第三号

一九四〇（昭和十五年）年

翻訳

79 アウグスティヌス著、服部英次郎訳『告白』上巻、中巻、岩
波書店

80 佐野勝也編訳『アウグスティヌス篇』（世界大思想家選集）第
一書房

論文

81 石原謙「De Civitate Dei におけるアウグスティヌスの歴史
観」『文化』第七卷第四号、第五号

82 E・クレブス「アウグスチヌス」『カトリック大辞典』第一巻、
富山房

83 森本芳雄「アウグスティヌスに於ける『答』の意義」『基督教
研究』第十七卷第三号、第四号

84 長沢信寿「神と真理——アウグスチヌスに於ける所謂神の存
在の論証について」『宗教研究』第二卷第三号

85 沢崎堅造「アウグスチヌス『修道僧の労働』について」『共
助』第八三号（同著『キリスト教経済思想史研究』未来社、一
九四五、二三一～二四〇頁）

86 沢崎堅造「アウグスチヌスの共同体思想」『経済論集』第五〇

巻第五号（同右、二三一～二三〇頁）

一九四一（昭和十六）年

翻訳

87 E・プシュワラ著、吉満義彦訳「聖アウグスチヌスと近代哲
学の精神」『カトリック研究』第二二卷第六号
単行本

88 三谷隆正『アウグスチヌス小伝』三省堂

論文

89 小松茂「アウグスチヌスによる懷疑説批判」『インテル・ノ
ス』第二号

90 斯波義慧「アウグスチヌス『神の国』について」『宗教哲学名
著解説』

91 吉満義彦「アウグスティヌスの基督教史に於ける意義」『信
仰と生活』九月号

92 吉満義彦「キリスト教精神史と聖アウグスチヌス」『インテ
ル・ノス』第二号（同著『中世精神史研究』（吉満義彦著作集第
二巻）みすず書房、一九四八、二〇五～二二二頁）

一九四二（昭和十七）年

翻訳

93 アウグスティヌス著、高桑純夫訳『ソリロキア——私との対

話——』筑摩書房

- 94 K・アダム著、服部英次郎訳『聖アウグスティヌスの精神的発展』創元社

論文

- 95 井上智勇「アウグスチンの歴史観」『西洋史学説苑』第二輯
96 中山昌樹「アウグスチヌス『愛』の神学」『信仰と生活』第一〇四号

一九四三（昭和十八）年

翻訳

- 97 アウグスティヌス著、松谷・美山訳『山上の説教』単行本

- 98 矢内原忠雄『告白』講義』新教出版社
論文

- 99 大庭征露「聖アウグスチヌスに於ける神秘思想」『カトリック研究』第二三巻第一号

- 100 今泉三良「アウグスティヌス研究」『哲学雑誌』第五九号

- 101 石原謙「アウグスティヌスの世界創造の思想」『文化』第十卷第八号

- 102 吉満義彦「聖アウグスチヌスに於ける理性と信仰——精神史的宗教哲学序論の一章——」『宗教研究』第五卷第三輯、第四輯（同著『中世精神史研究』（吉満義彦著作集第二卷）みすず書房、

『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）

六〇～一二〇頁）

一九四四（昭和十九）年

翻訳

- 103 アウグスティヌス著、服部英次郎訳『信仰・希望・愛』（エンキリデイオン）増進社、第二刷一九四六、第三刷一九四七
104 アウグスティヌス著、野村良雄訳『人倫と愛——ヨハネ書簡註解』エンデル社

一九四六（昭和二十）年

翻訳

- 105 アウグスチヌス著、内村達三郎訳『懺悔録』（春秋社思想選書）春秋社

- 106 Ch・ドゥソン著、服部英次郎訳『聖アウグスティヌスとその時代』増進堂

- 107 L・ベルトラン著、柳川徳次郎訳『人間聖アウグスティヌス』中央出版社
論文

- 108 長沢信寿「確実性——聖アウグスチヌス研究」（その一、その二）『哲学研究』第三一巻第三五三号、第三五六号

一九四七（昭和二十）年

- 単行本
109 高桑純夫『中世精神史序説——アウグスチヌス研究——』み
すず書房

一九四八（昭和二三）年

単行本

- 110 柳川徳治郎『久遠の母 聖モニカの生涯』（グロリア文庫十
六）中央出版社

論文

- 111 神沢惣一郎『アウグスチヌスの『カリタス』とルツテルの『リ
ーベ』』『基督教文化』第三二号

- 112 松村克己『アウグステイヌスの『告白』』

- 113 長沢信寿『知性の優位と信仰の優位——聖アウグスチヌスに
おける』『哲学季刊』第七号

- 114 中川秀恭『青年期のアウグスチヌス』『敍説』第四号

- 115 西谷啓治『アウグステイヌスにおける知の問題』『基督教文
化』第三一号

- 116 山田品『聖アウグスチヌスにおける回心の問題』『哲学研究』
第三二卷第三七号、第三七三号、第三七五号、第三七七号

一九四九（昭和二四）年
翻訳

四八

- 117 アウグステイヌス著、服部英次郎訳『告白』下、岩波書店
118 アウグスチヌス著、斯波義慧訳『幸福なる生活』（春秋社思想
選書）春秋社

- 119 アウグステイヌス著、高桑純夫訳『ソリロキア・浄福の生』
筑摩書房

- 120 G・パピニ著、五十嵐仁訳『聖アウグスチヌス』中央出版社
単行本

- 121 H・デュモリン『聖アウグスチヌスの精神——告白録序説
——』エンデルレ書店

論文

- 122 近山金次『アウグスチヌス神国論の一節——聖人の心にうつ
る童女の悲しみ——』『世紀』第一号

- 123 服部英次郎『アウグステイヌスの『神の国』とその背景』『哲
学評論』第四卷第六号

- 124 石原謙『アウグステイヌス』『福音と時代』第四卷第四号

- 125 長沢信寿『聖アウグスチヌスにおける『哲学』の概念』『西洋
古典論集』

- 126 長沢信寿『西田先生と聖アウグステイヌス』『知と行』大
東出版社

- 127 中川秀恭『基督教的時間意識——聖アウグスチヌス告白十一
卷研究』『哲学季刊』第九号

- 128 西谷啓治『アウグステイヌスと現代の思想境位』『基督教文

化』第三四号

- 129 山田晶「聖アウグスチヌスにおける回心の問題」『哲学研究』第三二卷第二七九号、第二八一号、第三三卷第二八五号

一九五〇（昭和二五）年

翻訳

- 130 アウグスティヌス著、大谷長訳『真の宗教に就て』ヴェリタス書院

論文

- 131 服部英次郎「アウグスティヌス『告白』」（古典案内）『展望』第五九号

- 132 高田武四郎「アウグスティヌスの国家の定義と正義の概念」『同志社法学』第五号

- 133 吉田道雄「アウグスチヌスの自由意志論について」『哲学』第一号

一九五一（昭和二六）年

論文

- 134 近山金次「聖アウグスチヌスの戦争観」『世紀』第三〇号

- 135 福田正俊「肉欲の鎖を断った聖アウグスチヌス」『ニューエイジ』第三卷第一号

- 136 吉田道雄「無からの創造——アウグスチヌス研究」『基督教』

『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）

文化』第五三号

- 137 吉田道雄「アウグスチヌスの原罪論」『基督教文化』第六一号

一九五二（昭和二七）年

翻訳

- 138 E・トレルチ著、西村貞二訳『アウグスティヌス・キリスト教的古代と中世』新教出版社
単行本

- 139 三谷隆正『アウグスチヌス』三省堂（65の重版）

論文

- 140 近山金次「アウグスティヌスの国家観に対する史的考察」『史学』第二五卷第三号

- 141 羽田智夫「アウグスティヌスにおける自由意志の問題」『明治学院論叢』第二五号

- 142 秀村欣二「アウグスティヌスの平和観の一考察」『歴史学研究』第一五六号

- 143 今泉三良「アウグスチヌス」『理想』第二二六号、第二二八号

- 144 国分敬治「アウグスチヌスとトマス・アクィナス——認識論を中心として——」『立命館文学』第八六号

- 145 松本正夫「仏教哲学とアウグスチヌスの時間論について」『哲学』第二八号

- 146 松村克己「アウグスチヌスの『三一論』について」『神学』第

五卷

- 147 中川秀恭「アウグスティヌスの『三位一体論』に就いて」『宗教研究』第一二九号
- 148 小野忠信「アウグスチヌスのカッシアクムの対話篇研究序説」『明治学院論叢』第二六号
- 149 小野忠信「アウグスチヌスの秩序論における auctoritas et ratio 論についての一解釈」『明治学院論叢』第二七号
- 150 斯波義慧「アウグスチヌスとキケロのホルテンシウス」『哲學的文化』
- 151 霜山徳爾「天使とダイモン——聖アウグスティヌスをめぐって——」『聖心女子大学論集』第一号
- 152 山田晶「聖アウグスチヌスにおける真理及び真なるものに就いて」『人文研究』第三卷第六号
- 153 吉田道雄「アウグスチヌスの自由意志論について」(一)『哲学』第三号
- 一九五三(昭和二八)年
- 154 アウグスチヌス著、今泉三良訳「自由意志論——試訳」『哲学会誌』第三号
- 155 近山金次「聖アウグスチヌスと祖国の危機」『ソフィア』第二二

卷第四号

- 156 長沢信寿「内的人間と外的人間——聖アウグスティヌスの人間論——」『哲学年報』第十四号
- 157 長沢信寿「懷疑の克服——聖アウグスチヌス研究小序」『哲学研究』第三六卷第四一九号
- 158 小野忠信「アウグスチヌスにおける認識の世界の展開」『明治学院論叢』第二八号
- 159 谷口博章「アウグスチヌスの恩寵と意志の自由」『神学季刊』第一号
- 一九五四(昭和二九)年
- 160 アウグスティヌス著、高橋貞訳『秩序論』中央出版社
- 161 羽田智夫「聖アウグスティヌス——その精神史上の位置に就いて——」『共助』第四卷第十一号
- 162 印具徹「アウグスチヌス神学序論」『関西学院短大商科記念論文集』
- 163 長江恵「愛の闇夜——聖アウグスチヌス生誕一六〇〇年を記念して——」『ソフィア』第三卷第四号
- 164 木間瀬精三「聖アウグスティヌスの終末論」『基督教史学』第五号

- 165 小塩力「その子のところに映ったモニカ」『福音と世界』第九卷第十一号
- 166 茂泉昭男「De natura boni Aurelii Augustini」『東北学院大学論集』第十六号
- 一九五五（昭和三十〇）年
- 翻訳
- 167 アウグスチヌス著、今泉三良訳『告白』（世界大思想全集二七）河出書房
- 168 アウグスチヌス著、今泉三良訳「自由意志論」（つづき）『哲学会誌』第五号
- 169 アウグスチヌス著、小平尚道訳『説教集・神の言の受肉』日本基督教団出版部
- 170 ポンヂウス著、今泉三良訳『聖アウグスチヌス伝』（世界大思想全集二七）河出書房
単行本
- 171 上智大学編『聖アウグスチヌス研究——生誕一六〇〇年記念』創文社
論文
- 172 石原謙「アウグスティヌスとキリスト教歴史哲学の成立——De civitate Dei XVIII-XXの研究試論——」上智大学編『聖アウグスチヌス研究』創文社
- 『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）
- 173 高橋亘「聖アウグスチヌス三位一体論に於ける Imago Dei」『同右』
- 174 J・ジームス「アウグスチヌスにおける倫理的経験の形而上学」『同右』
- 175 A・エヴァンジェリスタ「聖アウグスチヌスの *Acies Mentis*」『同右』
- 176 H・クルーゼ「アウグスチヌスと聖書」『同右』
- 177 江藤太郎「運命と自由——De Civitate Dei Ⅱ（二）」『同右』
- 178 H・ロンデ「アウグスチヌスの神学における自由と恩寵」『同右』
- 179 近山金次「アウグスティヌスにおける教会と国家の問題」『同右』
- 180 H・デュモリン「現代のアウグスチヌス研究の動向」『同右』
- 181 石原謙「アウグスティヌスの内的発展について」『基督教論集』第三号
- 182 羽田智夫「アウグスティヌスにおける神の観念——『告白』第七巻の研究——」『明治学院大学論叢』第三九号
- 183 服部英次郎「アウグスティヌス」『世界歴史事典』第一巻
- 184 服部英次郎「アウグスティヌス」『哲学名著解題』春秋社
- 185 兵頭逸郎「聖アウグスチヌスの悲観」『世紀』第六八号
- 186 丸山義仁「アウグスチヌスの告白」『哲学会誌』第五号

187 中川秀恭「聖アウグスチヌスの人間精神における三位一体の探求」(英文)『東西宗教』

188 中沢宣夫「アウグスチヌスにおける memoria の一考察」『哲学雑誌』第七〇巻第七二九号

189 茂泉昭男「マニ教論争にみられるアウグスチヌスの悪論の展開」『東北学院大学論集』第十七号

190 吉田道雄「アウグスチヌスの自由意志論について」(目)『哲学』第五号

一九五六(昭和三一)年

論 文

191 近山金次「アウグスチヌスのミラノ滞在」『史学』第二九巻第三号

192 羽田智夫「アウグスチヌスにおける神の観念——告白」

193 第七巻の研究——(承前)『明治学院論叢』第四一號

194 服部英次郎「西洋中世哲学における性思想——アウグスチヌスを中心として」『思想』第三八八号

195 石原謙「アウグスチヌスにおける歴史哲学的基礎概念」(一)『基督教論集』第四号

196 石原謙「アウグスチヌスの教会概念について」『宗教研究』第一五〇号

197 小野忠信「アウグスチヌスの教会論」『明治学院論叢』第四

一九五七(昭和三二)年

論 文

198 茂泉昭男「アウグスチヌスにおける行為論——マニ教、ペラギウス論争を中心として——」『東北学院大学論集』第二七号

199 竹内正三「アウグスチヌスの社会観」『史学研究』第六一号

(同著)『暗黒時代の精神史』吉川弘文館、一九六九、十五、五〇頁

一九五八(昭和三三)年

論 文

200 W・ゴスマン「アウグスチヌスの告白録における『告白』概念」『世紀』第八三号

201 稲垣良典「日本における中世哲学関係文献目録」Ⅴアウグスチヌス」『アカデミア』第十八巻 文学篇

202 大谷啓治「アウグスチヌスの国家観」『世紀』第九〇号

203 島本清「アウグスチヌスの『告白』に於ける時間に就いて」『竜谷大学論集』第三五七号

- 204 堀光男「アウグスティヌスの《*unitas ecclesiae*》について」『神学』第十六号
- 205 松村克己「アウグスティヌス——原罪」『毎日宗教講座』第一卷
- 206 長沢信寿「アウグスティヌスにおける精神の構造を表わす二、三の用語について」『西洋古典学研究』第六号
- 207 仁戸田六三郎「Intellectus に関する考察——アウグスチヌスを中心として——」『中世思想研究』第一号
- 208 関核豊明「アウグスティヌスにおける人間不滅論」『宗教研究』第一五四号
- 209 島本清「アウグスティヌスの『告白』における時」『宗教研究』第一五四号
- 一九五九（昭和三四）年
- 210 H・カルプ著、中沢宣夫訳「アウグスチヌス 母モニカ」新教出版社
- 211 近山金次「アウグスティヌスと歴史的世界」『史学』第三二卷
- 212 近山金次「アウグスチヌスにおける歴史的世界の構造」『中世思想研究』第二号
- 213 泉治典「最近のアウグスチヌス研究文献」『同右』
- 『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）
- 214 加藤武「ミラノのヴィジョン——Confessiones VII に於ける聖アウグスチヌスの神秘経験——」『同右』
- 215 川中なお子「聖アウグスチヌスの『エンキリディオーン』」『同右』
- 216 清水正照「アウグスティヌスに於ける二つの光についての一考察」『同右』
- 217 高橋亘「聖アウグスチヌスの『音楽論』」『ソフィア』第八巻第四号
- 一九六〇（昭和三五）年
- 218 長沢信寿「アウグスティヌス哲学の研究」創文社
- 219 金子晴勇「アウグスチヌスにおける理性と信仰の問題」『哲学研究』第四一巻第二冊
- 220 坂口ふみ「救済と解脱——アウグスチヌスと入楞伽經」『東大教養学部比較文化紀要』第一輯
- 221 清水正照「アウグスティヌスの『創世記』解釈における *materia informis* をめぐる問題点」『中世思想研究』第三号
- 222 渡辺友市「ペトラルカとアウグスチヌス——《Secretum》を中心とした初期ルネサンスの人間観についての一考察」『文化』第二四巻第一九六号

一九六一（昭和三六）年

単行本

- 223 富沢孝彦『人生問題と聖アウグスティヌスの回心』光明社
 224 内田芳明『アウグスティヌスと古代の終末』弘文堂

論文

- 225 泉治典「長沢信寿著『アウグスティヌス哲学の研究』（書評）『中世思想研究』第四号

- 226 泉治典「アウグスチヌスにおける可変性の概念」『同右』

- 227 泉治典「キリスト教の愛について——アウグスチヌスの愛への理解と批判の試み——」『実存主義』第三号

- 228 中沢宣夫「アウグステイヌスにおける精神のメモリアと言葉——照明説解釈の一考察」『哲学雑誌』第七六巻第七四六号

- 229 奥田成孝「アウグステイヌスの『告白録』について」『共助』第十一巻第二号

- 230 茂泉昭男「アウグステイヌスにおける SYMBOLISM——*verbum communicatis*を中心として」『文化』第二五巻第四号

- 231 山田晶「神の現存と認識——アウグスチヌスとトマスにおける——」『哲学研究』第四一巻第六冊、第七冊

一九六二（昭和三七）年

論文

- 232 印具徹「中世思想 一、アウグスチヌス」『日本の神学』第一

号

- 233 加藤武「L'Influence de l'Hortensius sur St. Augustin」『中世思想研究』第五号

- 234 長沢信寿「アウグスティヌスの哲学とヒューマニズムの問題」『同右』

- 235 山田晶「LOQUACES MUTI——Augustinus, Confess. I, c. 4, n. 4——」『同右』

- 236 高橋直「聖アウグスチヌスの認識説」『哲学研究』第四一巻第十二冊

一九六三（昭和三八）年

翻訳

- 237 アウグスチヌス著、熊谷賢二訳『カトリック教会の道徳』創文社

- 238 ポンディウス著、熊谷賢二訳『聖アウグスチヌスの生涯』創文社

論文

- 239 M・デ・ブラバンデレ「愛の本性と対象に関する聖アウグスチヌスの教え」『カトリック神学』第三号、第四号

- 240 今野国雄「修道制史上における聖アウグスティヌス」『経済系』第五五〇五八輯（同著『西洋中世の社会と教会』岩波書店一九七三、三九一～四四七頁）

- 241 金子晴勇「宗教的原体験の意義について——特にアウグスティヌスとルターの比較による試論的一考察——」『人文科学紀要』第二号
- 242 金子晴勇「不安な魂の足跡をたずねて——アウグスチヌスの生涯と思索から——」『共助』九月号・十二月号
- 243 松村克己「アウグステイヌス」『キリスト教大事典』教文館
- 244 中沢宣夫「アウグステイヌス主義」『同右』
- 245 小野忠信「アウグステイヌス研究」『同右』
- 246 P・ネメシェギ「聖アウグスチヌス著 ヤヌアリウスへの手紙——教会の一致と多様性をめぐって——」『カトリック神学』第四号
- 247 茂泉昭男「アウグステイヌスの聖書解釈」『宗教研究』第一七四号
- 248 高橋亘「聖アウグスチヌスの歴史観」上智大学編『伝統と創造』創文社
- 249 吉田道雄「アウグステイヌスとペラギウス主義」『聖書の世界』六月号
- 一九六四（昭和三九）年
- 250 アウグスチヌス著、熊谷賢二訳『教えの手ほどき』創文社
- 251 アウグステイヌス著、今道友信訳『恩寵と自由意志について——日本におけるアウグステイヌス文獻』（宮谷）
- 252 永井明『恩寵博士 聖アウグスチヌス』（グローリア文庫二）中央出版社
- 253 今野国雄「十一、十二世紀におけるアウグステイヌス復活の一面——アウグステイヌス派聖堂参事会の起源と意義——」『中世思想研究』第六号（同著『西洋中世の社会と国家』岩波書店、三七五～三九〇頁）
- 254 石原謙「アウグステイヌスの初期の著作とそのキリスト教的性格——特に *De beata vita* について——」青山学院基督教学会編『宣教と神学』創文社
- 255 泉治典「アウグステイヌスの思想とその時代——神の国の理念をめぐって」『歴史教育』第十二卷第七号
- 256 金子晴勇「アウグステイヌスにおける時間と歴史性の問題」『日本の神学』第三号
- 257 中村友太郎「聖アウグスチヌスにおける『永生の平和』理念について」『比較文化研究』第四号
- 258 大出哲「聖アウグステイヌスの『創世記逐語解』について——『神国論』における「神の国」と「地の国」の原型の形成——」『室蘭工大研究報告』第四卷第三号
- 259 茂泉昭男「アウグステイヌスの回心に関する解釈学的考察」

- 『倫理学年報』第十三集
- 260 茂泉昭男「アウグステイヌスにおける聖書」『東北学院大学論集』第四五(第四八号)
- 261 山田晶「告白のことば——アウグスチヌスにおける *confessio* の意味」『カトリック神学』第六号
- 一九六五(昭和四〇)年
- 翻訳
- 262 K・ヤスパース著、林田新三訳『イエスとアウグスチヌス』(ヤスパース選集十二)理想社
- 論文
- 253 長沢信寿「アウグステイヌスの存在論」江藤・高田・松本編『西洋中世思想の研究』(石原謙先生献呈論文集)岩波書店
- 264 斯波義慧「聖アウグステイヌスの霊魂不滅に関する証明について」『同右』
- 265 近山金次「アウグステイヌスの歴史理念」『同右』
- 266 渡辺秀「アウグステイヌスとデカルトの疑いについて」『同右』
- 267 武田信一「アウグステイヌスのカリタス」『同右』
- 268 中川秀恭「アウグステイヌスにおける解釈学について」『同右』
- 269 山田晶「懺悔と讃美——アウグステイヌスにおける *confessio* の意味——」『同右』
- 270 近山金次「アウグスチヌスのペラギウス論駁」『史学』第三八卷第三号
- 271 泉治典「アウグステイヌス『三位一体論』における『内的な言』について」『中世思想研究』第七号
- 272 高橋亘「自然意志と悪についての一考察——聖アウグステイヌス、聖トマス・アキナス、ドン・スコトス——」『同右』
- 273 清水正照「アウグステイヌスにおける *querere* の成立について」『同右』
- 274 加藤武「インテリオル・メロディア」(一)『立教大学研究報告』第十七号
- 275 小池三郎「アウグスチヌスの基督論」『基督教研究』第三四卷第一号
- 276 松村克己「アウグステイヌス『告白』」『キリスト教名著案内』上 日本基督教団出版部
- 277 大出哲「アウグステイヌスにおける人祖の墮罪」『室蘭大研究報告』第五卷第一号
- 278 田中香澄「アウグステイヌスの美学思想」『千葉商大論叢』第三号
- 279 田中香澄「アウグステイヌスの『音楽論』について」『美学』第六二号
- 280 宇田達夫「神国論序説」『神学論文集』(創立十周年記念)

- 281 山中良知「アウグスティヌスの『神の国』における社会倫理の概念について」『関西学院大学社会学部紀要』第十一号(同著『宗教と社会倫理』創文社、一九七〇、七二―九〇頁)
- 一九六六(昭和四一)年
- 282 アウグスチヌス著、今泉・村治訳『告白』(世界の大思想三)河出書房
- 283 アウグステイヌス著、渡辺義雄訳『告白、幸福なる生活、独白』(世界古典文学全集二六)筑摩書房
- 285 284 アウグステイヌス著、今泉三良訳『自由意志論』創造社
アウグスチヌス著、池田敏雄訳『告白録——抄訳と解説——』(ユニヴァーサル文庫五九)中央出版社
- 単行本
- 286 高橋亘『聖アウグスチヌス「告白録」講義』理想社
- 論文
- 287 服部英次郎「解説 アウグスチヌス」今泉・村治訳『告白』河出書房
- 288 今泉三良「解説 アウグスチヌス『告白』」『同右』
- 289 村治能就「アウグスチヌス年表」『同右』
- 290 服部英次郎「アウグステイヌスとその『幸福な生活』『独白』『告白』」渡辺義雄訳『告白、幸福な生活、独白』筑摩書房
- 『日本におけるアウグステイヌス文獻』(宮谷)
- 291 渡辺義雄「アウグステイヌス年譜」『同右』
- 292 近山金次「アウグステイヌスと歴史」『同右月報』
- 293 中川秀恭「時と永遠——アウグステイヌスの『告白』における時間論」『同右』
- 294 渡辺秀「アウグステイヌスとボエティウスと中世の学問」『同右』
- 295 近山金次「アウグスチヌスにおける歴史への歩み」『史学』第三九卷第三号
- 296 服部英次郎「アウグスチヌスと愛の秩序」『中世思想研究』第八号
- 297 今道友信「包越者——アウグステイヌスによる *gratia* と神の省察、恩寵と自由意志の研究」『同右』
- 298 加藤武「De Pulchro et Apto への Poseidonios の影響」(『同右』)
- 299 宮谷宣史「初期のアウグステイヌスにおける恩恵思想の研究」(『基督教論集』第十二号)
- 300 宮谷宣史「A. Augustinus, Confessiones の研究」『研究報告』第三号
- 301 中川秀恭「アウグスチヌスの『三位一体論』について」『北大文学部紀要』第十五卷第一号(同著『信仰と歴史』日本YMCA同盟出版部、一九六七、一四九―一八一頁)
- 302 石原謙「アウグステイヌスとその平和思想」『日本の神学』

第五号

- 303 小野忠信 「日本におけるアウグスティヌス研究」『同右』
 304 茂泉昭男 「アウグスティヌスの聖書解釈」『同右』

一九六七（昭和四二）年

論文

- 305 加藤信朗 「Cor, Praecordia, Viscere——聖アウグスティヌス『告白録』における psychologia 又は anthropologia に関する若干の考察——」『中世思想研究』第九号
 306 小池三郎 「アウグスティヌスにおける予定と恩寵——De divinis questionibus ad Simplicianum を中心として」『同右』
 307 岡野昌雄 「アウグスティヌスにおける平和 Pax の概念」『同右』
 308 藤代泰三 「アウグスティヌス『神国論』第一巻について」『基督教研究』第三五卷第三、三三三号
 309 本多正昭 「時熟論一考——ニーチェとアウグスチヌスに於ける時間意識の構造に関する一比論——」『研究紀要』第六号
 310 宮谷宣史 「真理と愛の求道者——アウグスティヌスの生涯——」『このぶえ』四〇二、二月号
 311 清水正照 「アウグスティヌスのロマ書翰七、七〇・七五の解釈について」『哲学論文集』第三輯
 312 山田晶 「罪と罰——アウグスチヌス思想発展の段階——」

『カトリック神学』第十二号

一九六八（昭和四三）年

翻訳

- 313 アウグスティヌス著、山田晶訳『告白』（世界の名著十四）中央公論社
 314 J・W・ワンド編、出村彰訳『神の国』日本基督教団出版部単行本
 315 清水正照 「アウグスティヌス形而上学研究——アウグスティヌスにおけるパウロ書翰と新プラトン主義——」綿正社論文
 316 山田晶 「教父アウグスティヌスと『告白』」山田訳『告白』中央公論社
 317 山田晶 「アウグスティヌス年譜」『同右』
 318 近山金次 「アウグスチヌスと歴史の核心」『史学』第四〇巻第四号
 319 金井寿男 「アウグスティヌスにおける自由意志と悪の起源」『思索』第一号
 320 松田禎二 「アウグスティヌス『神国論』における Civitas Dei」『中世思想研究』第十号
 321 岡野昌雄 「アウグスティヌスの『無からの創造』論——『創世記』第一章一節の解釈をめぐって——」『同右』

- 322 宮谷宣史「真理と愛の求道者——アウグスティヌスの生涯——」『つのぶえ』一〇十一月号
- 323 大谷啓治「中世人間観の二側面——アウグスティヌスにおける霊肉の問題をめぐって——」上智大学編『人間論の諸問題』
- 一九六九（昭和四四）年
- 324 翻訳
E・プシュヴァーラ編、茂泉昭男訳『アウグスティヌス語録』上、日本基督教団出版局
- 325 Ch・ドーソン他著、服部英次郎訳『アウグスティヌス、その時代と思想』筑摩書房
- 論 文
- 327 326 Ch・ドーソン「聖アウグスティヌスとその時代」『同右』
- 327 326 C・マーティンデル「聖アウグスティヌスの生涯と性格のスケッチ」『同右』
- 329 328 C・ダーシー「聖アウグスティヌスの哲学」『同右』
- J・マリタン「聖アウグスティヌスと聖トマス・アクィナス」『同右』
- 330 R・ゴスラン「聖アウグスティヌスの道德の体系」『同右』
- E・ジルソン「聖アウグスティヌス形而上学の将来」『同右』
- E・I・ワトキン著、本多正昭訳「聖アウグスティヌスの神秘主義」『哲学論文集』第五号
- 『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）
- 333 金井寿男「アウグスティヌス自由意志説の素描」『フィロソフィア・イワテ』第三号
- 334 金井寿男「アウグスティヌスにおける現存する悲慘と自由意志」『思索』第二号
- 335 宮谷宣史「真理と愛の求道者——アウグスティヌスの生涯——」『つのぶえ』一〇三月号
- 336 長沢信寿「アウグスティヌスにおける神の創造について」『哲学研究年報』第十号
- 337 茂泉昭男「アウグスティヌスにおける『愛によって働く信仰』（Gal. V. 6）の釈義的問題」『思索』第二号
- 一九七〇（昭和四五）年
- 単行本
- 338 矢内原忠雄『アウグスチヌス 告白』（土曜学校講義）（一）みず書房
- 論 文
- 339 千阪靖朗「アウグスティヌスにおける悪の問題」『木野評論』創刊号
- 340 加藤武「Domus animae meae——Confessiones I, 1, 5——」『中世思想研究』第十二号
- 341 大島春子『二つの魂』説に見られるアウグスチヌスのマニ教解釈について『同右』

- 342 山田晶『アウグスティヌスにおける『真』と『真のもの』について——Soliloq. I, c. 15, nn. 27~28——』『同右』
- 343 和田トク子『アウグスティヌスの愛の思想における『友と共なる生活』について』『同右』
- 一九七二(昭和四七)年
- 単行本
- 344 矢内原忠雄『アウグスチヌス 神の国』(土曜学校講義 (二) みすず書房)
- 345 矢内原忠雄『アウグスチヌス 三位一体論』(同(三) みすず書房)
- 346 赤木善光『信仰と権威——新約聖書からアウグスティヌスまで』日本基督教団出版局
- 347 茂泉昭男『アウグスティヌス倫理思想の研究』日本基督教団出版局
- 論文
- 348 金子晴勇『アウグスティヌスにおけるパウロ書翰と新プラトン主義』(書評)『日本の神学』第十号
- 349 村川満『神の国と地の国——アウグスティヌスの『神の国』について』『関西学院大学社会学部紀要』第二二二号
- 350 村川満『キリスト教古典八——アウグスティヌス』『告白』『兄弟』第一八三号
- 351 山崎照『アウグスティヌスにおける隣人愛(Dilectio Proximi)の思想』『同志社文化学年報』第十二号
- 一九七二(昭和四七)年
- 単行本
- 352 矢内原忠雄『アウグスチヌス ペラギウス論争』(土曜学校講義 (四) みすず書房)
- 論文
- 353 赤木善光『『異端』概念の流動性について——特にアウグスティヌスに関して』『日本の神学』十一号
- 354 近山金次『『神国論』の成立』『慶応義塾大学言語文化研究所紀要』第四号
- 355 清田寛『アウグスティヌスについての一考察——“De libero arbitrio”第二巻、第三巻における“voluntas”について——』『宗教研究』第二二二〇号
- 356 松田禎二『アウグスティヌスの『神国論』における基本的構想』『京都産業大学論集』第二巻第二号
- 357 松村克己『教理史研究への出発——赤木善光著『信仰と権威——新約聖書からアウグスティヌスまで』』(書評)『日本の神学』十一号
- 358 宮谷宣史『茂泉昭男著『アウグスティヌス倫理思想の研究』』(書評)『大学キリスト者』第十二巻第四七号

- 359 森泰男「アウグスティヌスにおける Resurrectio carnis と Immortalitas animae について」『文理論集』第十三巻第一号
- 360 村上二三「アウグスチヌスの三位一体論的思惟について」『中世思想研究』第十四号
- 361 清水正昭「神の言葉を宣べる人、アウグスティヌス——茂泉昭男著『アウグスティヌス倫理思想の研究』（書評）『日本の神学』十一号
- 362 高橋亘「アウグスチヌス『神国論』の現代的意義」『同右』
- 363 上田道夫「神の派遣について——Augustinus, De Trinitate I~IV から——」『同右』
- 364 小田丙午郎「De Civitate Dei 中のアウグスティヌスの歴史哲学について」『奈良大学紀要』第二号
- 365 山田晶「アウグスチヌスにおける悪の問題——『悪は存在しない』という命題の意味について——」『理想』第四六九号
- 366 山田晶「在りて在るもの——アウグスティヌスの Exod., 3, 14 解釈——」『哲学研究』第四五巻第五二四号
- 367 E. Katayanagi, Augustinus "Cogito", in: Theological Studies in Japan (Annual Report on Theology, No. 11)
- 一九七三（昭和四八）年
- 翻訳 『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）
- 368 E・プシュヴァーラ編、茂泉昭男訳『アウグスティヌス語録』中、日本基督教団出版局
- 369 アウグスティヌス著、今泉・井沢訳『自由意志論』創造社論文
- 370 M・デ・ブラバンデレ「キリストの神秘体についてのアウグスティヌスの教説」『カトリック研究』第二三三号、二四号
- 371 加藤武「邂逅としての時間——アウグスチヌス『告白』第十巻（Conf. XI, 29）末尾の解釈」『立教大学研究報告』第三三三号
- 372 熊田陽一郎「アウグスティヌスと人間の双頭の魂（anceps animus humanus）」『カトリック研究』第二二二号
- 373 松田禎二「アウグスティヌスの人間論——ペラギウス論争をめぐる——」『人文論集』第二四号
- 374 宮谷宣史「アウグスティヌス哲学研究の論文集」（新刊ニュース）『聖書と教会』八月号
- 375 宮谷宣史「アウグスティヌスの遺跡をめぐる」『聖書と教会』十一月、十二月号
- 376 宮谷宣史「イタリアのアウグスティヌス」『新教』第十二号
- 377 森泰男「アウグスティヌスにおける聖霊の問題」『文理論集』第十四巻第一号
- 378 小笠原亮一「山田晶先生『アウグスティヌスと女性』へのレポート」『共助』第二三三巻第十二号
- 379 岡野昌雄「分散と持続——アウグスティヌスの時間論に関する

る一考察——』『人文科学研究』第八号

380 岡崎和子「アウグスチヌスの『三位一体論』VIII-XIV 卷における神の似像について」『中世思想研究』第十五号

381 山田晶「アウグステイヌスにおける神の知り方について——Soliloq. I, cc. 2-5——」『同右』

382 山田晶「在りて在る者——アウグステイヌスの Exod., 3, 14 解釈——」『哲学研究』第四五卷第五二五号

383 Y. MIYATANI, Spiritus und Litera bei Augustin, in: Kwansei Gakuin Univ. Annual Studies, Vol. XXII.

一九七四（昭和四九）年

翻訳

384 アウグステイヌス著、河井田研朗訳「神国論」（部分）林、沢田篇『原典による歴史学の歩み』講談社

論文

385 河井田研朗「解説 アウグステイヌス『神国論』」『同右』

386 堀米庸三「ヒッポ・レギウスへの道——アウグステイヌス遺跡巡礼——」『展望』第一八九号

387 石本洪規「聖アウグステイヌスの“De trinitate”について——異端対決から内面への道——」『新潟大学教育学部紀要』第十五号

388 川田殖「この世にあって、この世をこえて——時代とアウグ

ステイヌス——」『共助』第二四卷第十号

389 川田熊太郎「時と永遠——アウグスチンと龍樹」『思想』第四八九号

390 宮谷宣史「アウグステイヌスの三一論」『聖書と教会』第六月号

391 宮谷宣史「イタリアのアウグステイヌス」『新教』第十三号

392 宮谷宣史「アウグステイヌス『告白録』の解釈について」『神学研究』第二二号

393 村川満「アウグスチヌス 告白」『信仰の遺産』日本キリスト改革派教会西部中会教育委員会

394 中沢宣夫「魂の深みを問ひ求める人——『告白録』第十卷六〇『共助』第二四卷第十一号

395 小浜善信「アウグステイヌス『三位一体論』に於ける三性」『中世思想研究』第十六号

396 岡野昌雄「『告白』を学ぶために」『共助』第二四卷第十一号

397 支倉崇晴「パスカルとアウグスチヌス——真の宗教について——を中心として」『東大教養学部外国語科研究紀要』第二二卷第四号

398 Y. MIYATANI, Grundstruktur und Bedeutung der augustinischen Hermeneutik in De Doctrina Christiana, in: Kwansei Gakuin Univ. Annual Studies, Vol. XXIII

一九七五（昭和五〇）年

翻訳

- 399 アウグスティヌス著、中沢宣夫訳『三位一体論』東京大学出版会
- 400 N・ペインズ著、平田平三郎訳『聖アウグスティヌス『神国論』の政治思想』・モラル著、平田訳『中世の政治思想』未来社論文
- 401 M・アモロス「聖アウグスティヌスの『告白』について」『上智大学哲学科紀要』第一号
- 402 加藤武「美の讃歌——Conf. X, 27, 38」『立教大学研究報告（文科学）』第三四号
- 403 今義博「アウグスティヌスの神体験における自己存在の理解——存在の根源的理解への開け——」『中世思想研究』第十七号
- 404 中川純男「アウグスティヌスとプラトンにおける分有」『同右』
- 405 岡崎文明「初期アウグスティヌスにおける真理について」『同右』
- 406 宮谷宣史「遺跡に見るアウグスティヌスの生涯」『信徒の友』九月号
- 407 宮谷宣史「アウグスティヌスにおける回心の思想」『基督教論集』第二〇号
- 408 森泰男「創世記解釈としてのアウグスティヌスの質料論について」『日本におけるアウグスティヌス文献』（宮谷）
- 409 いて『西南学院大学文理論集』第十五卷第二号
中沢宣夫「ものと言葉——アウグスティヌスの場合」『UP』第三五号
- 410 中沢宣夫「キリスト者の闘い——『告白』第十卷三九—六八の、肉の欲・目の欲・世間的野心をめぐる——」『共助』第二五卷第十号
- 411 山田晶・上山春平「対談・トマスとアウグスティヌス」『世界の名著』続第五卷付録十一、中央公論社
- 412 松村克己「アウグスティヌスの歴史的位置づけ——信仰の理解をめぐる——」『共助』第二五卷第十一号
- 413 岡野昌雄「序曲——『告白』第一卷第一章の研究——」松永・岡野編『西洋精神の源流と展開』（神田盾夫博士喜寿祝賀論文集）ペディアヴィウム会出版部
- 414 森泰男「アウグスティヌスにおける自然神学の問題」『文理論集』第十六卷第一号